

地域トピックス

◆賢く楽しく生き生きと(遠野町)

高齢者の教室「鍋城大学」の開講式は5月26日、とびあ集会所で行われました。

「鍋城大学」は、おおむね60歳以上の町民を対象に趣味の充実や交流を目的に老人クラブ連合会などが主催しているもので、本年度は176人が入学。この日参加した約130人の受講生は、「和顔愛語」と題した盛岡大学評議員の本田正弘氏の講義に熱心に耳を傾けていました。

来年2月までの毎月1回、さまざまな内容の講座が開催される予定です。



本田氏の講義に熱心に耳を傾ける受講生

◆事故のない町を目指して(宮守町)

宮守商工会青年部(菊池崇部長)は6月10日、宮守町の国道283号関谷坂パーキングで交通安全を呼び掛ける活動を行いました。

年々増加傾向にある交通事故を防止するために行ったもので、青年部員12人が参加。シートベルトとチャイルドシートの着用の徹底などを呼び掛けながら、お菓子などが入った袋をドライバーに手渡しました。用意した150個の袋は1時間ほどでなくなり、予想以上の交通量に会員たちは、安全運転の重要性を再認識しました。



ドライバーに安全運転を呼び掛ける商工会青年部の会員



大木に成長することを願い、心を込めて苗木を植える参加者

◆緑豊かな森を後世に残そう

平成十八年度市植樹祭は五月二十八日、土淵町の貞任牧場で開かれ、市民らが後世に緑豊かな森を残そうとミズナラなどの苗木を植樹しました。

市内の森林愛護少年団や地域住民ら百六十五人が参加。参加者は、スコップなどを手に、一いほどに成長したミズナラやシラカバなどの苗木約千五十本を一本一本丁寧に植えました。

兄弟で参加した鷹鳥屋森林愛護少年団の小松利哉君(小友小五年)と千加哉君(小友小五年)は「土が固くて、掘るのが難しかったです。今日植えた木が大きく育ってほしいです」と話していました。



残雪を踏みしめて山頂を目指す登山者

◆早池峰山の魅力を堪能

早池峰山(1917m)の山開きは六月十一日に行われ、県内外から訪れた約九百人の登山者が高山植物を眺めながら、山の魅力を満喫しました。

山頂では今シーズンの無事故を祈り神事を行った後、花巻市大迫町の岳神楽保存会が権現舞を奉納。また「早池峰」にゴミは似合わない実行委員会の会員らが、携帯トイレの使用や早池峰山の自然環境の保護を訴えました。

友人三人と訪れた松田綾子さん(下組町)は「久しぶりに早池峰山に登りました。天気も良く、ヒメコザクラなどの高山植物もきれいで」と声を弾ませていました。

◆心に響く感動のステージ

市文化交流施設みやもりホール開館記念「あんべ光俊遠野物語コンサート」は五月二十七日、同ホールで開かれ、約三百人の観客で会場は満員となりました。

語り部の伊藤弘美さんの昔話で開演。父親が上郷町、母親が宮守町出身のあんべさんは、曲の合間に幼少時代の遠野での思い出話や、自らの語りで「宮守物語」を披露。

また、湧水神楽の躍動感あふれる舞がステージに花を添えたほか、コンプリオ銀河混声合唱団が「遠野物語」を、同合唱団に上郷中の三年生三十三人が加わり、あんべさんと「イーハトーブの風」を大合唱し、会場は感動に包まれました。



躍動感あふれる舞を披露する湧水神楽保存会



あんべ光俊さんと共演する上郷中3年生とコンプリオ銀河混声合唱団

◆皆さんに親しまれ50万人達成

遠野ふれあい交流センター「あえりあ遠野」の来館者が六月九日、五十万人を超えました。市は、来館者に記念品を贈り、開館から五年目の大台達成を祝いました。

五十万人目の来館者は青森市の中村幸子さん。本館秋市長、株式会社遠野の多田和城代表取締役らが記念品としてペア宿泊券などを贈り、くす玉割りをしました。

夫婦で県内を旅行していた中村さんは「旅館を経営しているの、二人で旅行するのは新婚旅行以来三十六年ぶり。初めて遠野を訪れた日に五十万人目に当たり、とてもいい思い出になりました」と笑顔で話していました。



50万人目の来館者となり、記念品を受け取る中村幸子さん

安全運転の実践で輝く準優勝



準優勝を果たした遠野市チームのメンバー。左から山田光男さん、藤村敬二さん、菊池一男さん。

第3回県高齢者交通安全自転車大会(県交通安全協会など主催)は6月12日、盛岡市の県営運動公園内の交通公園で行われ、14チームが参加した団体の部で遠野市チームが見事準優勝を果たしました。

大会には県内の65歳以上の高齢者41人が参加。学科テストと実技テストにより安全運転の知識や技術を競いました。遠野市チームは、藤村敬二さん(70歳、東穀町)、山田光男さん(75歳、東穀町)、菊池一男さん(69歳、青笹町)で編成。「準優勝するとは思わずびっくりした。来年も参加して、ぜひ優勝したい」と三人が口をそろえました。藤村さんは「この大会で得た交通安全の知識を、地域の人にも伝達していきたい」と話していました。